西東京市市民協働推進センター

平成28年度第7回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成28年11月15日(火)午後7時00分～9時00分
■開催場所：イングビル3F
■出席委員：池田委員、伊藤委員、熊田委員、坂口委員、佐藤(文)、田中(友)、谷委員、富沢委員、藤江委員、＜以上9名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、佐藤副センター長、小平福祉活動推進課長、妻屋課長補佐、八阪主事

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、10月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委員長：フェスティバルの翌週に開催する交流会はフェスティバル参加団体以外も募集をかけるのか。

事務局：当日はフェスティバルの様子を映像ダイジェスト版でお見せする予定である。振り返りの意味合いも含めて団体交流という目的もあるので、参加できなかった団体も募集する予定である。

委員長：申込がすでに51名とあるがキャパはどれくらいか。

事務局：コール田無のイベントルームA,Bを予定している。6～70名はある。

委員長：登録団体のメーリングリストとあるが、どれくらいの流通量があるのか。

事務局：ゆめこらぼからの発信がほとんどで、団体同士でのやりとりには使われていない。子育て団体用のメーリングリストもあるが、同様である。

2. 11月以降の事業について

事務局より、11月以降の実施事業について説明があった。

委　員：IT勉強会は、Code for Japanの方の講演会からスタートし、行政の情報を活用して効率化を提案する意図で始まったと思うが、そうなっていないように感じる。

事務局：現段階では、ITのスキルをつけながらの勉強会をしている状況である。

委　員：次回おとぱミディサロンについてだが、サロンに参加しているメンバーの一人が講演をするようだが、この活動支援トライアルの狙いはどこにあるのか。

事務局：今回講師をする方は地域デビューシリーズに何回か参加されている。まだ具体的に活動を始めていないが、今後団体を作って活動する可能性もある。サロンメンバーから是非支援したいという意見が出たため、活動支援トライアルとしてサロンの一部で開催してみることとなった。今後継続することはない。

委員長：今年度の地域デビューの参加者は固定ではなくオープンで募集し、その一環でおとぱミディサロンになっていると思うが、今後は地域デビュー参加者がグループ化して独立していくのか。あくまでオープンで誰でも参加していろいろな方を巻き込んでいくのか。どちらに重きを置いているのかセンターとしての方針をはっきりさせる必要があると考える。

委　員：地域デビューの活動支援トライアルはその人だけを支援しているように感じる。

事務局：トライアルにはあくまでもサロンの一部の時間を充てて行う。サロンはあくまで個々の方が自分にあった市民活動を見つけるための支援の場であると考えている。定期的にサロンを開催し

ていることにより、いつでもだれでも自由に参加でき、地域デビューのきっかけや情報を得ることのできる場として続ける意味があると考えている。線引きははっきりしていきたい。

2. 審　議　事　項

1. 前回会議録について

委員長：今週末までに意見がなければ、確定稿とする。

3. 協　議　事　項

1. センターの業務の執行に関する事項（重点事業の企画）について

事務局より、平成 29 年度西東京市市民協働推進センター運営委員会委員名簿（案）について説明があった。

委員から候補者の推薦があり、議論した。

事務局より、第 2 回まちづくり円卓会議について（案）について説明があった。

委員長：第 2 回まちづくり円卓会議のメンバーは第 1 回のメンバーと同じか。

事務局：同じである。

委員長：第 1 回まちづくり円卓会議の感想を聞きたい。

委　員：ファシリテーターを務めたが、会議メンバーが協力的に意見を出してくれた。前半に講座の振り返りが長かったため話合いの時間が不足し次回に継続していくこととなった。行政の力も借りて、ささやかでも何か仕組みが生み出せればと思う。地域デビューできない人がデビューするためにはどうしたらよいのかという内容で、関心が持てるメニューをそろえるべきではないか、デビューできない人の関心を押さえておくべきではないか等の意見が出された。次回落としどころを念頭に置きつつ決めて進めたいと考えている。

委　員：参加者も多く、いい会議だったと思う。皆さんから解決策を出してくれたら、応援したい。

委員長：地域の市民活動を支えているのはほとんど 60 代である。若い世代がいない事に危機感がある。もう少し下の世代を巻き込んでいくことも課題となっている。テーマとしても深めていきたいのでアイデアなど意見はないか。

委　員：世代が 30 年くらい廻った時に市民活動のアクションの起こし方が全く違うことになるのではないかと思う。後継者を探すという発想とはまるで違うフレームワークができるのではないかと感じている。

委員長：世代交代の時、どうするかという問題がある。今回の会議メンバーは高齢者と普段から関わっている方が多い。オブザーバーとして福祉以外の子育てや環境分野、生協や労組など別のセクターからのフレッシュな意見を入れてはどうか。違うタイプの意見が言えるオブザーバーにあえて参加をしてもらうことも考えてはどうか。

委　員：感想だが、ゆめこらぼの中で地域デビューシリーズのおとぱ関連は安定しているように感じる。高齢者が集まり、円卓会議が同じような方向に流れていくのは、ゆめこらぼの流れとして当たっていると思う。

委　員：各企業を退職したら地域の活動をしてもらえる流れがあればと思う。

委員長：地域への市民参加デビューを促す企業も増えてはいる。次回の円卓会議をどう展開していくか聞きたい。良い議論ができた、というだけで終了して欲しくない。

委　員：具体的にまだ考えていないが、オブザーバーとして参加してもらうメンバーを考えたい。人選を相談し、なんらかの形になることを念頭に置きながら進めたい。
委　員：ニーズを調査し、次のステップにつながるように展開を考えていただきたい。
委　員：社会的認知を欲しがる人が地域デビューしたことを惨めに感じさせないことが必要と考える。
委員長：自主的なグループ化までは到達しないまでも、次のステップに繋げる展開にして欲しい。

2.運営委員会について

事務局より、今後の運営委員会の議題について説明があった。

委　員：以前出された議題だが、社協がいつまで委託を受けるのか。現状に問題があるという意味ではないが、違う運営形態があるのか検討することを追加して欲しい。
委員長：運営委員の主体性を発揮するという意味で、運営委員が企画提案するということについてどう考えるか。
委　員：予算、人数の調整が難しいと説明された記憶がある。月1回の運営委員会では現状のような事務局提案に対応することであれば十分できるが、運営委員が企画提案するには月1回では時間的に不十分だと思う。
事務局：当年度の予算の変更はできないが、年度内で議論し、翌年度の予算要求の時点で予算計上し、事業枠内で次年度から検討することは可能であると思う。
委員長：すでに決まっている事業の枠は変えられないので、事業の中のひとつの企画としてやることは可能だと考える。
委　員：2020年のオリンピック・パラリンピックでは、新しい社会参加として関わることが可能かと思う。ボランティア・市民活動センターは、夏に中高生のボランティア受け入れをしているが、中高生に限らず大人の年代でも対応できるよう連携することで、ゆめこらぼを社会福祉協議会が運営している良さを活かすことができれば良いと思う。
委員長：今後、オリンピック・パラリンピックの関係でボランティアの参加は、大きなテーマとなるだろう。現在は東京ボランティア・市民活動センターが中心となって進めている。来年度の「運営委員に引き継ぐこと」の議題の中で「参加」をテーマにするのもいいと思う。
委員長：ゆめこらぼは公設民営の施設なのでまんべんなく市民に受益することになるが、テーマを絞り何ができるかを4回のなかで議論してもいいと思う。
委　員：市民協働推進センターという名前だが、どういう「協働」を意味しているのか。もっと突っ込んで話しあってもいいと思う。
委員長：行政は「協働」をどのように考えているのか。
事務局：ゆめこらぼの登録団体は約150団体あるが、ほとんどが任意団体で基盤が弱い。協働の担い手になれるような基盤づくりをして欲しいという思いは強いようだ。協働できる団体もあるが、NPO企画提案事業を終えた後も事業を継続できるように基盤がしっかりしている団体・人材を強化して欲しいという意向があり、協働の受け皿になる団体を増やして欲しいのだと思う。
委　員：NPO等企画提案事業が団体の基盤づくりに役立つ制度になっているのかという問題もあるのではないか。
委　員：行政全体が共にまちをつくろうというスタイルになっていない。そういった市の姿勢を変えて欲しいと思う。そのようなことに繋げることができるのが市民協働推進センターだと思う。

委　員：西東京市では、市民活動というと何か旗を振る人のイメージが強く、ニュートラルな市民活動を理解してもらえないことがあると思う。

委員長：今後4回しかないのでテーマを決め、このような話し合いの中から珠玉の言葉を集めて次年度以降に繋げることもいいと思う。運営委員が企画提案をするかどうか、議題案の「来年度の運営委員会に引き継ぐべきこと」は今のような話を膨らまし、4月以降ももう少し膨らませていただいてもよいと思う。地縁のことも取り上げるかどうか。過去の運営委員会の議論で提出された運営委員会のやり方を含めた内容について協議することとする。

委　員：報告事項は事前に内容を知らされているのだから、どうしても質問したいことのみ話し合い、もっと議論の時間を増やすように議事を進める方がいいと思う。

委員長：今日も報告事項には15分ほどしか使っていない。議論するトピックを事前に知っておかないと十分な議論はできない。いくつかの議題が事前に決まっていないとできない。

委　員：提案する議案についての情報を事前に提示してもらい、その準備をして会議に臨むことが本来の形だと思っている。

委員長：あと4回の運営委員会で1時間はこのような議論をしたい。事務局には3月までのルーティンを出してもらい、どのくらいの時間が取れるか勘案していただき12月以降の4回につなげていきたい。少なくとも、運営委員会のやり方を含めた内容については是非議論したいと思う。協働コミュニティ課にも来ていただきたい。30分だけでも議論する時間が取っていただければと要請してほしい。議論は1月からにしましょう。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：12月20日（火）19時～20時

会場：ゆめこらぼサロンコーナー